



看護部通信



2018年 4月

雪解けがすすみ、白鳥が飛び立つ姿がみられ、新年度が始まりました。今年度は天皇陛下退位を控え平成の集大成の年であり、県立病院機構にとっては第2期中期計画の最終年度まとめの年です。

世の中が大きく変化する時代になり、リハセン看護部もこれから世代交代がすすむ中で職員一人ひとりが目標を持って成長していかなくてはならないと改めて気を引き締めています。看護管理室は今年度も変わらず頑張ります。ご協力よろしくお祈いします。

<看護管理室>



リハセンは永遠に不滅です！！（どこかで聞いたような・・・）

3病棟 K

22年前、入職当時になります私を含めた同期の看護師達は他病院で2年間の研修、その後開設準備としてシステム作りやマニュアル作成などの作業に追われる日々を送りました。（冬は自分たちでスコップを持ち除雪をしたものです）平成9年4月に開院し、リハ科病棟では「患者さんが望む、より良い状態での自宅退院」を目指し、認知症病棟では「患者さんが笑顔になる」お笑い系看護師を目指し、精神科病棟では「患者さんに寄り添う」看護師を目指して勤務をしてきました。

また、東日本大震災や昨年の秋田県豪雨などの災害対応、情報システム導入と更新、病院機能評価受審・・・様々な事がありました。難問が発生する度にチームワークで乗り越え、業務を全うできたのは部長をはじめ師長たち、病棟や外来のスタッフのみなさまのおかげです。

退職してからは、好奇心のままに色々チャレンジしていきます。どこまでできるか自分でもとても楽しみです。これからもずっとリハセンを応援しています！！

★ありがとう！★



雪解け過ぎて思うこと

3病棟 S

羽生選手を始め、過去最高のメダル数となった平昌オリンピック・パラリンピックが終わり、たくさんの感動を得ました。身の回りでは雪が解け始め、いよいよ春本番。と思いつつ、車を運転していると道路の穴凹が多いなと感じます。気になったので調べてみました。気温が高くなると道路の小さなひび割れや継ぎ目に雪解け水がしみ込みます。その水がアスファルトの砂粒の粘着力を弱め、隙間ができます。その水が冷え込む夜になると凍り、膨張してさらに隙間を広げます。その状態で車の重みや衝撃で道路の一部が崩壊し剥がれてしまいます。この穴凹を「ホットポール」と呼ぶそうです。

ちょっとスピードを出したくなる季節ですが、穴凹にはまってパンク、なんてことになったらテンション下がりますよね。工事が終わるまでの間は、慎重運転をおすすめします。

